

# 保険薬局におけるドーピング 問い合わせ体制と対応事例

株式会社マルゼン マルゼン薬局<sup>1</sup> ○川島 大希<sup>1</sup>, 高橋 祐<sup>1</sup>

## マルゼン薬局概要

武蔵新城駅  
JR南武線  
武蔵中原駅  
富士通橋川崎工場

- ◆ 処方箋応需枚数: 約3000枚/月
- ◆ 主な受付処方箋: 整形外科(約50%), 眼科(約25%), 内科, 耳鼻咽喉科等
- ◆ スポーツファーマシスト: 1名

Class A<sup>®</sup>のホームページ上でSPについて紹介↓

### スポーツファーマシストとは

スポーツファーマシスト(※)は最新のドーピング防止規則に関する情報・知識をもち、スポーツにおけるドーピングの防止を主な業務とする。

※薬剤師の資格をもち所定の課程を修めることで、「公認」日本ドーピング機構より認定される資格制度です。

JADA-日本アンチ・ドーピング機構

### 相談できること

- ・処方されたお薬がドーピング禁止薬に該当するかどうか?
- ・市販薬や漢方薬・健康食品/サプリメントを飲みたいが大丈夫か?
- ・禁止されている薬を使う場合はどうしたらよいか?

などなど、電話、FAXまたは直接薬局に来ていただいても構いません。お気軽にご相談ください。

禁止薬のこと相談してください!

## 目的

最近の日本におけるドーピング違反事例としては、意図せずに禁止物質を摂取し、ドーピングとなるうっかりドーピングが多く報告されている。スポーツファーマシスト(以下SP)は、日本アンチ・ドーピング機構(JADA)より認定される制度であり、薬の使用に関する情報提供や啓発活動を行い、ドーピング違反を防止することが使命の一つに挙げられる。

前回(第26回年会)我々は、SPの活動実例として日常業務の中でのドーピングに対する問い合わせ依頼を受けた薬剤師についての相談や、服用可能リストの作成等について報告した。

今回は、当薬局におけるドーピングの問い合わせ体制、および実際に関わった症例でドーピング回避へつながった一例について報告する。

## 方法

### ドーピングの問い合わせ対応の流れ(フロー参照)

1. 使用薬の禁止物質かどうかの問い合わせは、電話または処方箋持参時に対面にて行った。
2. 禁止物質かどうかの判断は「薬剤師のためのアンチ・ドーピングガイドブック」、「global DRO」で行い、判断に迷う場合は都道府県薬剤師会のホットラインを利用した。
3. 回答時には、調査薬剤を再確認し、処方薬交付時には global DRO で検索した内容を出し、これに基づき説明を行い交付した。
4. 相談内容は問い合わせ用紙に記載し、出力内容とともにファイルへ保管した。SP不在時も同様の対応をした。

- 問い合わせ**
  - ・電話または処方箋持参時、調査薬剤の聞き取り
- 調査①**
  - ・global DROで検索し、調査内容を2部出力(Fig.1)
  - ・薬剤師のためのアンチ・ドーピングガイドブックも補助的に利用
- 調査②**
  - ・上記ツールで回答に迷う場合、薬剤師会のホットラインにFAXで問い合わせ
- 回答**
  - ・電話回答の場合は、調査薬剤を再確認し回答
  - ・来局者は投薬時にglobal DROの出力内容に基づき回答・交付
- 保管**
  - ・問い合わせ用紙(Fig.1)に内容を記載し、出力内容とともに保管

Fig.1 global DRO出力内容および問い合わせ用紙(保管用)

## 結果・考察

Table 1 ドーピング問い合わせ内容一覧

競技	問い合わせ者	性別	相談内容	備考
ウエイトリフティング	競技者	不明	ラクビー <sup>®</sup> 錠, ミヤBM <sup>®</sup> 錠, マグミット <sup>®</sup> 錠	他薬局より
バスケットボール	トレーナー	女性	ミマイン <sup>®</sup> 錠, ビリドキサル錠, フラビタ <sup>®</sup> 錠, デイゾリ <sup>®</sup> ゲル, アカアチム <sup>®</sup> クリーム	
バスケットボール	トレーナー	女性	ニゾラール <sup>®</sup> クリーム	
バスケットボール	トレーナー	女性	ベミド <sup>®</sup> 点眼液, サンバタゾン <sup>®</sup> 眼耳鼻科用液	
アメリカンフットボール	トレーナー	女性	トドメール <sup>®</sup> 点眼液, サンテゾ <sup>®</sup> 眼軟膏, ウロカル <sup>®</sup> 錠	ホットライン
バスケットボール	トレーナー	女性	アンズロイ <sup>®</sup> 錠, カルホシステイン錠, フラベリック <sup>®</sup> 錠	
サッカー	指導者	男性	α-GPC(健康食品)	ホットライン
アーチェリー	競技者	男性	アンテベート <sup>®</sup> 軟膏, アンテベート <sup>®</sup> ローション	
ビーチバレー	競技者	男性	歯科治療時に気をつけるべきこと	
チャダンス	競技者母	女性	服用薬の確認: オン <sup>®</sup> DS, IPD <sup>®</sup> DS, ペラチン <sup>®</sup> DS, ムコゲン <sup>®</sup> DS, アトエア <sup>®</sup> 吸入, マチン <sup>®</sup> キッドエア <sup>®</sup> , ホクナリン <sup>®</sup> テープ	来局者(相談事例) TUE書類, 相談(マチン中止時期)

平成28年5月から平成30年4月の時点で、問い合わせ対応は16件であった。Table 1に競技、問い合わせ者の立場、性別、相談内容について示す。内訳としては、医療用医薬品14件、健康食品1件、その他が1件であった(Fig.2)。総件数のうち11件は当日中に回答し、2件はホットラインを利用したため、2日要した(Fig.3)。また、SP不在時の問い合わせは3件であった。

相談者は速やかな回答を期待しており、SP不在時も問い合わせフローに基づく体制を整備することで、比較的迅速な回答ができたと考えられる。しかし、内容は医療用医薬品に集中しており、OTCや漢方薬、サプリメント等によるうっかりドーピングのリスクに対する認識が低い可能性がある。今後、競技者やその家族、トレーナー等に対する啓発活動が重要だと考えられる。

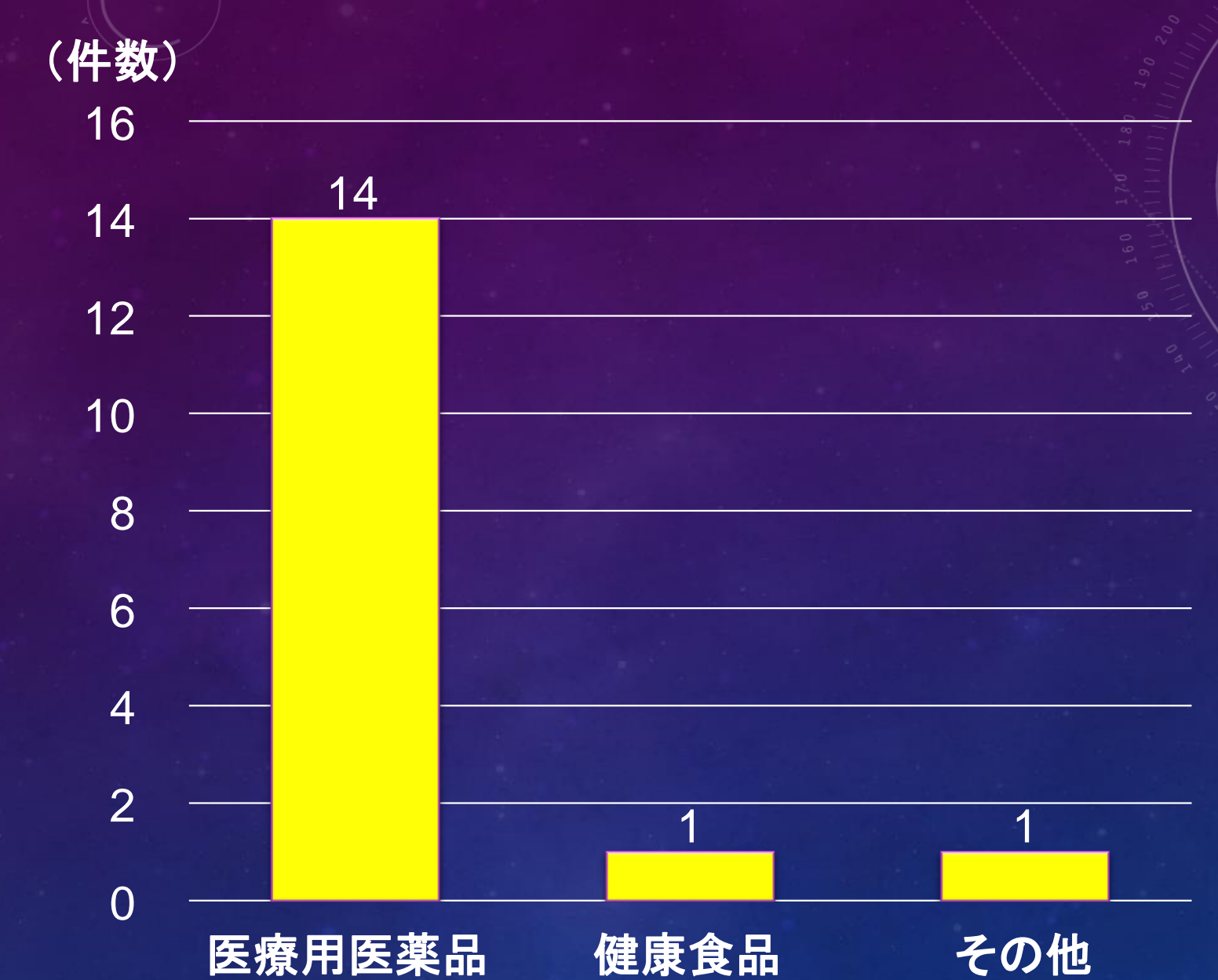


Fig.2 ドーピング禁止薬に関する問い合わせ件数(平成28年5月~平成30年4月)

## ドーピング相談事例

### ドーピング違反を回避した症例

- ▶ 12歳女性、喘息治療中
- ▶ 使用薬剤: 定期薬(アイピーディ<sup>®</sup>DS5%, オノン<sup>®</sup>DS10%, アドエア<sup>®</sup>100ディスカス<sup>®</sup>60吸入用), 発作時(メプテン<sup>®</sup>キッドエア<sup>®</sup>5 $\mu$ g吸入), 感冒時(ペラチン<sup>®</sup>DS0.1%・カルボシステインDS50%), その他(ホクナリン<sup>®</sup>テープ)
- ▶ 競技種目: チャダンス
- ▶ 競技レベル: 国際大会、チーム内で2名が検査対象となる。

当薬局を定期的に利用されている選手に対して、服用薬が禁止物質に該当するか調査を行った。喘息治療薬であるベータ2作用薬の一部の薬剤を除き、常に禁止される物質に該当する(Table 2)。使用薬剤の中では、アドエア<sup>®</sup>ディスカスは禁止物質とはならないが、メプテン<sup>®</sup>キッドエア<sup>®</sup>、ペラチン<sup>®</sup>DS、ホクナリン<sup>®</sup>テープは禁止物質に該当した。

そのため、その旨を選手母に説明し、代替薬のサルブタモール吸入剤を提案した。メプテン<sup>®</sup>エア<sup>®</sup>を使用する場合はTUE(治療使用特例)申請を大会の30日前に行い、承認を受けなければ使用可能であることを説明し、申請書(下図)と記載例を提供した。

薬剤の追加やTUE申請の手続きには至らなかったが、SPからの情報提供によりドーピング違反を未然に回避し、安全な薬剤の服用へつながったと考えられる。

競技	問い合わせ者	性別	相談内容	備考
ビーチバレー	競技者	男性	サイザル <sup>®</sup> 錠, バイナス <sup>®</sup> 錠	
バスケットボール	トレーナー	女性	ルバフィン <sup>®</sup> 錠, エリザス <sup>®</sup> 点鼻粉末	
バスケットボール	トレーナー	男性	エリザス <sup>®</sup> 点鼻粉末, 競技と禁止薬について	
バスケットボール	トレーナー	男性	フロモックス <sup>®</sup> 錠, クラリス <sup>®</sup> 錠, ガストロム <sup>®</sup> 顆粒	
バスケットボール	競技者	男性	アレグラ <sup>®</sup> 錠, シェニナック <sup>®</sup> 錠, カルホシステイン錠	来局者
チャダンス	競技者母	女性	デザレックス <sup>®</sup> 錠	来局者

(平成28年5月~平成30年4月)

Table 2 禁止表国際基準およびベータ2作用薬詳細

WADA 禁止表一部(2018年)	ベータ2作用薬; 但し以下のものは除く:
<b>常に禁止される物質と方法(競技会(時)及び競技会外)</b> [禁止物質] S0. 無承認物質 S1. 蛋白同化薬 S2. ペプチドホルモン, 成長因子, 関連物質および機微物質 S3. ベータ2作用薬 S4. ホルモン調節薬および代謝調節薬 S5. 利尿薬および隠蔽薬 [禁止方法] M1. 血液及び血液成分の操作 M2. 化学的および物理的操作 M3. 遺伝子ドーピング	吸入サルブタモール(最大1600 $\mu$ g/24hr, いかなる用量から開始しても800 $\mu$ g/12hrを超えない) ○(サルタノール <sup>®</sup> など) 吸入ホルモテロール(最大投与量54 $\mu$ g/24hr) ○(シムビコート <sup>®</sup> , オーキシス <sup>®</sup> , フルティフォーム <sup>®</sup> ) 吸入サルメテロール(最大200 $\mu$ g/24hr) ○(セルベント <sup>®</sup> , アドエア <sup>®</sup> )

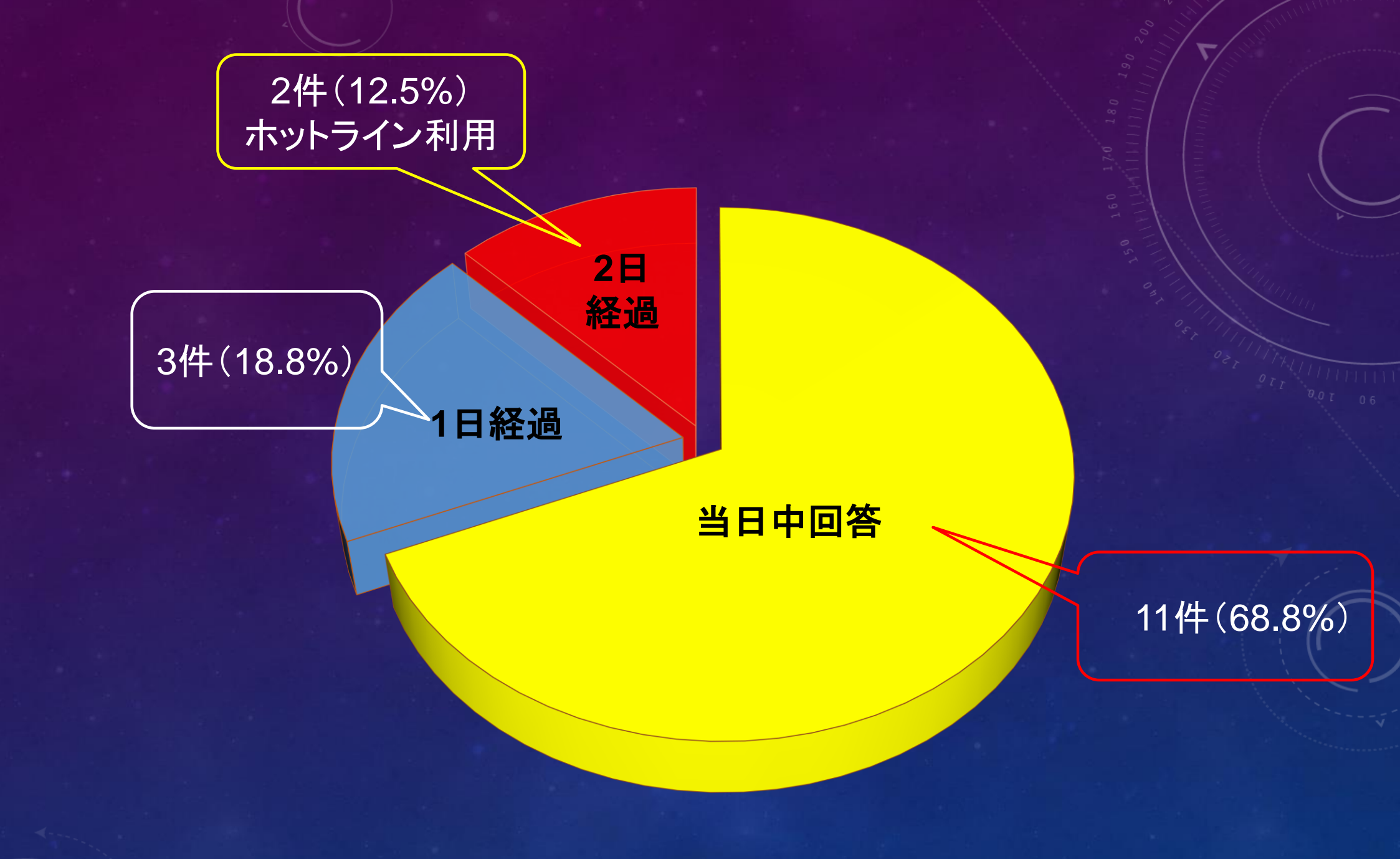


Fig.3 問い合わせから回答までの経過時間

## 結論

▶ ドーピングの問い合わせ体制を整備することで、スポーツファーマシスト不在時にもフローに基づき対応することが可能となった。

▶ 相談事例をとおりして、スポーツファーマシストが選手に対してドーピングに関する情報を提供することで、安全な服薬につながった。

JADA ホームページのクイックダウンロードより